

事務事業名	観光等促進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	まちのにぎわいと地域経済の振興を図る		
	めざす成果	多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成03年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民、市外からの来訪者		5年度（決算額）	6年度（決算額）	7年度（予算額）
	事業費	13,249	4,501	7,074
	人件費	12,767	7,690	7,690
目 的	総事業費	26,016	12,191	14,764
本市の地域資源や魅力を効果的に活用・発信し、市外からの来訪と人々の活発な交流を促進するとともに、賑わいを創出します。	7年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営・委託】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		7,074
		合 計		7,074
・イベントキャラクター「ヤマトン」を活用したPRを行います。				
・賑わいを創出する新たなイベントを実施します。				

成 果（効果・予測）	3. 活動内容				
	活動指標1	名称	SNSによる情報発信回数		単位 回
		内容説明	SNSを使用したイベント等の情報発信		
		指標値	5年度	6年度（当該年度）	7年度
			予 定	120	120
			実 績	113	156
市全体の魅力アップやイメージアップに貢献することができます。	活動指標2	名称			単位
		内容説明			
		指標値	5年度	6年度（当該年度）	7年度
			予 定		
			実 績		――
課 題	活動指標3	名称			単位
		内容説明			
		指標値	5年度	6年度（当該年度）	7年度
			予 定		
			実 績		――
・ヤマトンを活用したPR活動を継続しつつ、地域資源を活用した新たな取り組みを実施していくことが課題です。	活動指標4	名称			単位
		内容説明			
		指標値	5年度	6年度（当該年度）	7年度
			予 定		
			実 績		――

4. 今後の方針等

今後の方針等	4年度	I：現状のまま継続	5年度	II：見直しのうえで継続	6年度	II：見直しのうえで継続
	市の情報発信に関しては引き続き、SNSを活用しながら市内外に向けて積極的に進めていきます。 若者世代をはじめ幅広い世代が楽しめるイベントを開催するなど、にぎわいの創出を図ります。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	4年度	5年度	6年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	市の魅力を発信し、市内外の人びとのつながりとまちのにぎわい創出を図るため、本事業に市が積極的に関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	4年度	5年度	6年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	時流をとらえた新たなイベントや、情報発信方法に検討の余地があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	4年度	5年度	6年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	主な事業費は人件費です。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	4年度	5年度	6年度	A：受益・負担は適正である。
	A	B	A	全市民を対象としたイベントですが、イベントによって参加者の年代に偏りが見られるため、事業の見直しが必要であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	4年度	5年度	6年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまなどの市広報媒体やメディア、SNS等を活用して、市内外に情報発信ができたと考えます。また、イベント当日には多くの市民ボランティアの参加を得ることができました。

事務事業名	イベント観光協会支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	まちのにぎわいと地域経済の振興を図る		
	めざす成果	多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間	
	平成13年度		設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費（単位：千円）			
大和市イベント観光協会		5年度（決算額）	6年度（決算額）	7年度（予算額）
	事業費	19,205	20,108	18,419
	人件費	6,008	6,152	5,383
目 的	総事業費	25,213	26,260	23,802
本市の観光行政の一翼を担う大和市イベント観光協会の運営を支援します。	7年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・大和市イベント観光協会補助金を交付します。 ・大和市イベント観光協会の運営や事業についての支援、助言を行います。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		18,419
		合 計		18,419

3. 活動内容

活動指標1	名称	補助金交付回数		単位	回
	内容説明	一年間に補助金を交付した回数			
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度
		予 定	1	1	1
		実 績	1	1	――
活動指標2	名称	定期監査、理事会、総会		単位	回
	内容説明	定期監査、理事会、総会に出席した回数			
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度
		予 定	3	3	3
		実 績	3	3	――
活動指標3	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度
		予 定			
		実 績			――
活動指標4	名称			単位	
	内容説明				
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度
		予 定			
		実 績			――

4. 今後の方針等

今後の方針等	4年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	5年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	6年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	大和市イベント観光協会の安定的な運営や、市の魅力をさらに市内外に伝えるための効果的なイベントの開催及び情報発信などについて、支援します。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	4年度	5年度	6年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	大和市イベント観光協会は、市がその設立から関わってきた団体です。本市の観光事業の振興と発展を図るためには、緊密に協力していく必要があることから、今後も継続して市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	4年度	5年度	6年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	アニメ、声優、芸能、eスポーツなどの様々なコンテンツを活用し、魅力的なイベントを開催することにより、さらに成果をあげることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	4年度	5年度	6年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、大和市イベント観光協会に対する補助金として、予算案及び事業計画を精査した上で決定しており、同協会を円滑に運営する経費として、適正な水準にあると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	4年度	5年度	6年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	大和市イベント観光協会は、市全体の魅力やイメージの向上を目的とした事業を実施しているため、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	4年度	5年度	6年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	大和市イベント観光協会の事業について、同協会のホームページ、SNSに加えて、市の広報紙やSNSでも情報発信を行いました。さらに、各種メディアを通じた情報発信にも務めたことにより、市内外に市の魅力を発信できたと考えます。

事務事業名	観光イベント支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	まちのにぎわいと地域経済の振興を図る		
	めざす成果	多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 平成03年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
各観光イベントを主催する実行委員会		5年度（決算額）	6年度（決算額）	7年度（予算額）
	事業費	2,090	2,090	3,465
	人件費	3,755	7,690	9,228
目 的	総事業費	5,845	9,780	12,693
各観光イベントを主催する実行委員会の運営を支援します。	7年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		3,465
		合 計		3,465
・市内で行われる観光イベントの主催者に対して、補助金を交付します。				
・各観光イベントを主催する実行委員会への参画や開催				

3. 活動内容

活動指標1	名称	実行委員会等出席回数			単位	回
	内容説明	市職員が実行委員会等準備会に出席した回数				
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度	
		予 定	38	38	38	
		実 績	34	28	――	
活動指標2	名称	補助金交付件数			単位	件
	内容説明	補助金を交付した件数				
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度	
		予 定	4	4	4	
		実 績	2	2	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		5年度	6年度（当該年度）	7年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	4年度	I：現状のまま継続	5年度	II：見直しのうえで継続	6年度	II：見直しのうえで継続
	今後も、市全体を賑やかにする各種イベントを円滑に運営するための取り組みを推進するとともに、さまざまな媒体を活用して、これらのイベントが持つ魅力を市内外に発信していきます。 南部地域でイベント開催を目指している実行委員会に支援を行い、また、コロナ収束後も開催できていないイベントについては、あり方などを含め必要な支援を行います。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	4年度	5年度	6年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、多くの集客ができる魅力的なイベントを開催するために各実行委員会を支援するものです。市が継続的に関与することで、より一層のまちのにぎわい創出、交流人口の拡大を図ることができます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	4年度	5年度	6年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	コロナ収束後も開催できていない2イベント（高座渋谷・千本桜さくらまつり、渋谷よさこい）について、あり方などを含め必要な支援を行います。また、南部地域で開催を目指している「渋祭」の支援を行います。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	4年度	5年度	6年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	市全体をにぎやかにする観光イベントの開催に対する補助金であり、補助金額は事業計画を精査した上で適正額を決定しています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	4年度	5年度	6年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	市全体をにぎやかにする観光イベントの開催に対する補助金であり、受益・負担の公平性は適正であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	4年度	5年度	6年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまなど市の広報媒体やSNSも活用し、広く市内外に情報発信を行いました。

9166
一般會計

1. 位置づけ・事務事業の期間			
総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち	
	個別目標	まちのにぎわいと地域経済の振興を図る	
	めざす成果	多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている	
根拠法令	名 称		
当該事業の法令等による義務付けの有無		無	
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和53年度		設定無し

対 象	総事業費			(単位：千円)
大和市民まつり実行委員会		5年度（決算額）	6年度（決算額）	7年度（予算額）
	事業費	11,500	14,480	14,480
	人件費	9,763	11,535	9,997
目 的	総事業費	21,263	26,015	24,477
大和市民まつり実行委員会の運営を支援します。	7年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金	0	
		県支出金	0	
		市債	0	
		その他	0	
		一般財源	14,480	
		合 計	14,480	
手段、手法【実施手法：直営】				
・大和市民まつり実行委員会に対して、補助金を交付します。				
・同実行委員会の総括事務局として、まつり全体の運営				

活動指標1	名称	実行委員会・部会等開催回数			単位	回	
	内容説明	役員会、実行委員会、6部会の開催回数					
	指標値	5年度		6年度（当該年度）		7年度	
		予 定	25	25	25		
実 績		30	25	— — —			
活動指標2	名称	イベント実施日数			単位	日	
	内容説明	イベントの実施日数					
	指標値	5年度		6年度（当該年度）		7年度	
		予 定	2	2	2		
実 績		2	2	— — —			
活動指標3	名称	出店数			単位	店	
	内容説明	市民まつりに参加した市民団体等の出店数					
	指標値	5年度		6年度（当該年度）		7年度	
		予 定	330	300	300		
実 績		202	251	— — —			
活動指標4	名称				単位		
	内容説明						
	指標値	5年度		6年度（当該年度）		7年度	
		予 定					
実 績				— — —			

今後の方針等	4年度	I : 現状のまま継続	5年度	I : 現状のまま継続	6年度	I : 現状のまま継続
	- 今後も、市民まつりが円滑に開催され、多くの市民に愛されるイベントとなるよう、実行委員会の運営支援を継続していきます。 - 令和6年度は、5年ぶりにパレードが復活した市民まつりを開催することができました。今後も、開催内容の充実に努めていきます。					